

ベトナム環境行政担当者がごみ収集現場を視察

18日、区営高井戸四丁目アパートのごみ集積場に、ベトナムのハノイ市やホーチミン市などで、環境行政のインフラ整備などの事業にあたるメンバー8人が訪れ、区のごみ収集の様子を視察しました。一行は、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施する研修（3月10日～4月4日）に参加中で、研修は世界トップレベルの技術を有する日本の廃棄物処理を実際に視察することで、自国の環境行政の課題を把握すること、さらに廃棄物発電の導入の可能性などを目的としています。

ベトナムは農業大国から、急速な工業化が進み、人口の都市集中などが続いています。こうしたことに起因して、様々な環境問題が発生していますが、特にごみ処理については、分別や収集といった考えが乏しく、市民がポイ捨てしたごみを清掃員が拾い集めるといった状況が見られるなど社会問題となっています。また、廃棄物処理施設が足りないことから、集めたごみの多くは未処理のまま埋め立てられています。

今回の研修参加者の一人、ハノイ市天然資源環境省廃棄物管理局事務官のファン・ティエン・トアンさんは、「近年、日本やアメリカ、ドイツの支援を受けて、廃棄物処理の導入が進められていますが、全国的な普及には至っていないことや各家庭でのごみ分別ができていないことが課題です。一方、ホーチミン市では、海外の支援ではなく自らの取り組みで、ごみ分別プロジェクトを立ち上げました。これは、ベトナムにとって大きな一歩です。」と話していました。

一行は、区立高井戸東四丁目アパートの集積所で、清掃車に可燃ごみを収集する様子をカメラに収めたり、区担当者に収集の回数や集積所の数などを質問したりしていました。その後、一昨年、リニューアルしたばかりの杉並清掃工場に移動。最新の設備で、可燃ごみが処理されるしくみや同時に行われる発電のしくみなどを視察し、熱心に耳を傾けました。

研修は、廃棄物処理施設や発電設備、最終処分場の視察のほか、市民の環境意識を高める環境教育や住民啓発など多岐に渡っています。8人のメンバーは、いずれもベトナムでは環境行政の第一線で活躍しているメンバーで、ベトナムの経済的発展にも欠かせない環境インフラの整備に役立てられます。



【問い合わせ先】

杉並清掃事務所方南支所 電話 3312-4571（直通）